

シニア便り

第31号(2015年11月発行)

発行：北海道シニア吹奏楽団・事務局

編集：シニア便り編集部

第22回定期演奏会を終えて

団長・常任指揮者 中村 暁生

実行委員 横山 千草

新人団員のご挨拶

畠山 敬

千葉いづみ

山本 敦子

坂井 裕子

シリーズ：シニアのルールを解説(Q&A)

コンプライアンス委員会 鈴木 隆起

シリーズ：「団員の事をもっと知ろう」はお休み
します。

第22回定期演奏会を終えて

団長・常任指揮者 中村 暁生

はじめに

第22回定期演奏会は団員の皆様のご努力とご協力により、好評のうちに無事終了することができました。

特に今回の実行委員会は、立ち上げ直前にメンバー予定者のうち2名が退団、1名が休団で実質チューバ2名、パーカッション2名で始まり、今年に入ってから新しく入団された4名の方々が途中から加わるという状況と、異種楽器の組み合わせという厳しい条件の中で、綿密な計画と周到な準備で円滑に演奏会を進めていただいたことに、団を代表して厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

演奏について

新しいメンバーも加わって、バンド全体の音色に輝きと幅が広がり、纏りのある演奏になったと

思います。ピッチも略合うようになり全体としてかなり向上したと感じました。

アンケートでは選曲の幅、しらかば台小学校とのコラボレーションも好評、中でも「ひばり・メドレー」と「風笛」が多くのお客様から喜ばれたことは、これからの演奏会の企画の参考になったと思います。

今後の課題

ライブ録音を聴いて感じたことは、細かいフレーズの処理、音形の不揃い、プレス、バランスなど、まだまだ不十分です。その原因と責任の大半は指揮者である私にあると思われ、練習方法を含め改善する必要があると痛感しています。

シニアらしい温かみのある雰囲気を失うことなく更なる向上を目指して皆様と一緒に進んでいきたいと思っています。



第22回定期演奏会を終えて

実行委員 パーカッション 横山 千草

皆様、定期演奏会お疲れ様でした。

実質4人でスタートした今年の実行委員会は全員が初心者！。その為、伊藤事務局長には、とうとう寝込んでしまう程、並々ならぬご苦勞をおかけしてしまいました。そして山田さん、阿部薫さん。広報と広告の違いも分からず、領収書を扱うのも初めてという横山が担当になったばかりに色々ご迷惑おかけしました。皆様のご協力のおかげで、なんとか演奏会を終えることができました。しみじみありがたく、紙面には収まらないほど感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。定期演奏会直前に入団して、わけもわからず !! 委員にな

ってしまった4人の方々、素早く動いて下さって助かりました。本当にありがとうございました。

さて、毎年行われるアンケート、今回初めて!! 真剣に読んでみました。あくまでも記入して下さいました方の集計ですが、60歳以上のお客様が半数を超えていました。

やはり『美空ひばりメドレー』が一番人気! 83%の方がとても良い、良いと答えてくださいました。

「シニア」世代の心にひばりさんの懐かしい名曲が響いたようです。『風笛』にもたくさんのお褒めの言葉をいただきました。しかも名指しで! 葛本さんファンが多数いらっしゃるようです。

そして注目なのが、アンコールを喜んで下さった方のコメントの多さです。個人的には『青い影』(今回初めて題名を知りました)は地味なのでは!! という気持ちもあったのですが、なんと「よかった」と言って下さった方が数名いて、やっぱりお客様には合っていたんだなあと感じました。もちろん『輝けシニア』が素晴らしかったというお声がたくさん届きました。中村先生のマーチ、演奏する方も楽しいですもんね。

クイズは賛否両論、いらぬという声もありましたが、ステージの上から、景品を受け取る満面の笑みを見られたことで、疲れも吹っ飛びました。技術的な面でのお叱りもあります。でも、小学生との共演や肩肘張らずに聴ける内容、歳を重ねても共に同じことに学び、成長し、共感しあっていける仲間と、音楽を『続けている』というところに(アンケートコメントより)シニアならではの良さを感じ取っていただけた気がします。

肩の荷がおりたところで、初心に帰って私の一番好きな『試奏期間』を楽しみたいと思います。最後に、いつも楽器運搬ありがとうございます



新入団員のご挨拶

パーカッション 畠山 敬

皆さんこんにちは! 9月から正団員になりましたパーカッションの畠山 敬(はたけやま たかし)と申します。

私は函館出身の48歳で、現在は札幌パークホテルに勤務しております。

高校卒業後、23年間札幌に住んでいましたが、実家の都合により1度函館に戻っております。

その間、2年ほど社会人楽団に所属しましたが、サービス業という仕事の関係上、練習に参加できる回数が減ってしまい、やむを得ず退団いたしました。



今年4月に再び大好きな札幌に戻って来た際に、なんとか練習に行けそうな曜日で行っている吹奏楽団が無いか色々とネット検索をしていたところ、ナント!! 「練習日が日曜」「無理なく参加できそうな月2回の練習」それに「コンクールには出場せず」という考え方。

そして団の名前は「シニア」!! これは孫の居る私にピッタリの団だと確信し、ホームページにアクセスしたのが5月下旬でした。。。。

小学校5年生で「小太鼓」と出会い、6年生のときに演奏した「軽騎兵序曲」は大成功。大声援と拍手喝采を受ける「快感」が忘れられず、中学校に入ってから迷わず吹奏楽部に入部し1年生の夏からは先輩を押しつけてパーカス花形の? 「スネアドラム」担当で、コンクールで2年連続全道大会に出場。高校は地元函館で当時ジャニーズ並みに「女子の黄色い歓声」が飛んでいた「函館有斗高校 マーチングバンド」に入り、「楽しい音楽との共存生活」を過ごしていた学生時代。。。。

しかし社会人になってからはサービス業という不規則な仕事のため、吹奏楽という言葉からは段々と離れて行ってしまいました。

現在もホテル勤務というサービス業に従事してお

りますが、「練習日が日曜」という魅力的な練習日を持つ「北海道シニア吹奏楽団」だと、割と練習出席率も高く維持出来そうなので、これからも大好きな吹奏楽を、「手足が動かなくなるまで」「ボケて違う練習会場に向かってしまうまで」は「楽しく未永く」在籍して行きたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

新入団員のご挨拶

フルート 千葉 いづみ

本年8月よりピッコロ・フルートでお世話になっています、千葉いづみと申します。

豪雪地の岩見沢市、旧栗沢町より参加させて頂いております。部活動で楽器を吹いていたのは中学の3年間のみです。高校から本格的にフルートで身を立てようと道外の高校を目指しましたが諸般の都合にて断念。以来学生時代はオセロ部、帰宅部、ススキノ徘徊部と音楽とは無縁の生活でした。実家が寺の為後継にされてはたまらんと逃げるように(?) 東京の某クロネコ運輸にて国際輸出営業の仕事に就ておりました。職場結婚にて念願の退職後安泰サラリーマンの妻の座を得ることとなりましたが、夫の突然の『坊さんになる!』発言により長男誕生40日目にして北海道の実家へ戻る事となりました。

こうなりゃもう好きなことやるしか無い!と再び笛を吹き始め、縁あって色々な団のお手伝いをさせて頂くようになって20年。実家にも戻りましたが、音楽にも戻ってきました。これが私の運命だったのだと思っています。

大学生2人の親業、寺業、仕事、おっと忘れてた稀に妻業と忙殺の日々であります。楽器ケースを開けて、楽譜を準備する自分の心が躍っている事に気づかれます。このシニア

吹奏楽団の存在が皆様にとってもそうであるように、心穏やかにしてくれる存在で有りますよう、



努力して参りたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

新入団員のご挨拶 『バリーさんと私』 バリトンサクソ 山本 敦子

それは今から4年と半年程前のこと。

吹奏楽の田中靖人さんではなく、スカパラの谷中敦さんに憧れて『バリトン吹いてみたい』との思いを募らせていた時、バリーさんと出会いました。

その時バリーさんは、別の縁談がまとまりかけていたのですが、幸運の女神様は私に微笑んでくださり、めでたくバリーさんは私の元へ。。。

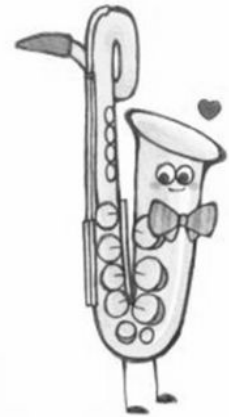
今思うと、遠い昔ピアノをほんの少々程度の楽器経験しか無い私が、アルトサクソスを習うことに

なり、ママさん吹奏楽団に入れたのも、たまたま運とタイミングが良かっただけでなく、何かの導きがあったようでした。

嬉しくて毎日家でバリーさんと練習していましたが、人前で吹く自信はなくて、バリトン転向要請を固辞し続けていたら、団設立以来不在だったバリトンに入団希望者が現れ...

そして一年後、家でも吹けなくなってしまい、次第に練習しなくなり、やがてバリーさんはしまわれたきりで、部屋の隅っこ暮らしになってしまいました。

昨夏、腰痛の悪化から、一度はバリーさんを手放す覚悟をしたものの、このままでは絶対後悔する!、もう一度気が済むまでバリーさんと向き合おう!と思い直したところへ、またしても幸運の女神様がチャンスをくださり、今年2月ついにバリトン・デビュー、そしてシニアにも入団させていただきました。不思議な縁と運のバリーさんと私、気力・体力の続く限り一緒に頑張りますので、温かく見守っていただければ幸いです。



新入団員のご挨拶

クラリネット 坂井 裕子

クラリネットパート新入団員の坂井裕子です。今年の初夏より入団させていただいております。現在大学生で、クラリネットは高校の吹奏楽部で演奏していました。2年と少しB管と1年間だけEs管も吹いていました。

大学ではバドミントン部に所属しています。昨年度までは特に練習や大会が忙しく、吹奏楽は聴く機会は年に数回あるものの、演奏する機会は滅多にありませんでした。演奏する機会がないのはさびしくもどかしいもので、なんとかしてまた吹奏楽に携わりたいと考えていました。そして1,2年前より、学業に支障がない練習頻度で、バドミントン部の8月上旬の大きな大会に参加できる（同時期のコンクールに参加しない）ことを条件に楽団探しを始めました。しかし、調べてみると条件にあう楽団はなかなか見つかりませんでした。そんな折、今年の年初にクラリネットパートも募集がかかっているのを拝見しました。すぐ、応募！そして雰囲気もよく、初めて見学させていただいた日に、入団意志は固まりました。

わたしは経験年数も少なく、技術もまだまだ未熟ですが、みなさんと音楽を楽しんでいきたいと思っています。なにとぞよろしくお願いいたします。



シリーズ：なるほどQ&A(その2)

<シニアのルールを分かり易く解説！>

Q3：シニアが目指すものは？

A3：規約の第2条に「団の目的と事業」が定められており、この考え方は団の発足時から変わっておりません。

まず目的は「地域文化の発展に寄与する」とされ

ており、「地域」とはどこを指すかといいますと、団の名称に「北海道」という冠がついているので、活動拠点である札幌を中心とした北海道全域である、と解釈できます。

次に、目的を達成するための手段として「定期又は随時に演奏会を開催」することを掲げていますが、それ以外に、例えば、小学校の音楽活動を支援することも地域文化の発展に寄与するための活動と捉えることができます。

上記手段を遂行するにあたっては、構成する団員の意識そのものが上記の目的に合致していなければなりませんし、規約第2条2項に定められているように、演奏技術のみに偏るのではなく、各地から集まった団員相互の深い信頼や絆が感じられるような演奏に努めることが重要になります。

(文責：鈴木隆起、

監修：コンプライアンス委員会)



=====

編集余録

=====

定期演奏会、お疲れ様でした。あっという間にこんな季節になってしまいましたね。風邪には注意してあったかく過ごして下さいね

(高橋由美)

音楽に関する事で、こんなことを教えて欲しい、こんなことを知って欲しいなど、ご希望やご要望がありましたら、お気軽に編集部までお知らせください。